

令和7年度 会派調査研究報告書

(視察先 1 か所につき 1 枚)

会派名	葎真クラブ	
出席者	宮川文憲・清水康雄・田原一孝・内藤正之・木内吉英・山本京子・石河一郎	
事業名	製造の伝承及び環境への取り組みについて	
事業区分	①研究研修	②調査

1. 葎崎市での課題と研修・調査の目的

サントリー山崎蒸溜所は、世界を代表するウイスキー工場の一つである。そこでは、葎崎市出身の首席ブレンダーをはじめ、多くの本市ゆかりの方々が活躍しており、地元出身者がそのような場で重要な役割を担っていることは、市民にとって大きな誇りであるとともに、次世代に夢と希望を与える意義深い事例である。

また、ウイスキー造りにおいて「水」が命とされる中、山崎蒸溜所では、水資源を守るための環境保全活動にも力を注いでいる。水が豊かで自然に恵まれた葎崎市においても、今後、製造業や地場産業が持続可能なたちで発展していくためには、環境への配慮をいっそう重視する必要があると考えられる。

こうした背景をふまえ、本視察では、製造技術の継承や環境保全の先進的な取り組みについて学び取り、今後の本市の施策検討に資することを目的とした。

2. 実施概要

実施日時	令和7年6月24日（火）13:30～15:30
視察先	サントリー山崎蒸溜所
担当部局	前村博士・輿石主席ブレンダー
報告内容	1. 概要
	サントリー山崎蒸溜所では、首席ブレンダーをはじめ、葎崎市出身の方々が複数名活躍されており、その事実は地元にとって大きな誇りである。視察では、ウイスキー製造の工程や、原材料・仕込み・蒸溜・熟成といった各段階での品質管理の取り組みについて丁寧な説明を受けた。
	特に印象的だったのは、「水が命」とされるウイスキー造りにおける環境保全の重要性であり、蒸溜所周辺の森を自らの手で育て、流域全体の水循環を維持する努力がなされている点であった。また、再生可能エネルギーの活用や廃熱の有効利用など、持続可能な企業運営に向けた多角的な取り組みも紹介された。
	説明は、サントリーの担当者によって行われ、地域と企業の連携のあり方についても触れられた。質疑応答では、地域貢献や人材育成、観光との連携についての質問も出され、参加者一同が熱心に耳を傾けた。
	2. 考察（これらの取り組みを葎崎市にどう活かせるか）
	本市出身者が世界的な蒸溜所で活躍している事実は、市民にとって大きな誇りであり、特に若い世代にとって「地元から世界へ」という可能性を感じさせる象徴的な存在である。今後、こうした人材の活躍を積極的に市として発信し、シティープロモーションや教育の一環としても活用していくこともできるのではないだろうか。
	また、サントリー山崎蒸溜所で実践されている水源保全や再生可能エネルギーの活用など、環境に配慮したものづくりの姿勢は、豊かな自然に恵まれた葎崎市においても大いに参考となる。

市としてもより一層、環境保全の強化に向けた施策の検討が求められる。
さらに、荏崎市では「ワインのまち」としてのブランディングを進めているが、今回の視察を通じて、酒類産業におけるブランド戦略、伝統の継承、物語性の発信といった点において、具体的な知見を得ることができた。こうした学びを今後の市の産業振興施策にも活かしていきたい。

感想（まとめ）

今回の視察を通じて、改めて一つの製品に対して深いこだわりを持ち、長い年月をかけて伝統を紡いでいくことの重みと素晴らしさを実感した。そうした姿勢こそが、やがて世界中から高い評価を受けるブランドを生み出す礎となっており、ものづくりの本質に触れた思いである。

また、ブランドの看板を背負うという重圧の中でも、仕事に対する情熱と誇りを持ち続けている姿勢は、極めて印象深かった。丁寧な説明や現場の空気からは、企業としての誇りに加え、自然環境や地域との共生を大切にする真摯な姿勢が強く伝わってきた。

荏崎市においても、環境・人・産業が調和する地域づくりを進めていくうえで、今回の視察は多くの示唆と学びを与えてくれる機会となった。



※写真等がある場合は添付すること